

インド思想史における

ヒンドウー法典の

意義

内なる証人の思想的系譜——
ウパニシャッドから『マヌ法典』、
シャクンタラー物語へ

手嶋 英貴 (龍谷大学・教授)

【指定コメンテーター】真鍋 智裕 (北海道大学大学院・准教授)

『マヌ法典』第1章における
二つの創成説 (cosmogony) 再考

吉水 清孝 (公益財団法人東洋文庫・研究員)

【指定コメンテーター】高橋 健二 (東洋大学・准教授)

ユガの循環と遷滅するダルマ——
叙事詩、法典の「子供」、そしてその先へ

谷口 力光 (名古屋大学・研究員 (学振PD))

【指定コメンテーター】沼田 一郎 (東洋大学・教授)

アガスティヤ仙とガネーシャの南下、
神格の混淆と発展について

斉藤 茜 (オーストリア科学アカデミー・研究員)

【指定コメンテーター】井田 克征 (中央大学・准教授)

シヴァダルマ文献における牛の聖性

横地 優子 (京都大学大学院・教授)

【指定コメンテーター】高島 淳 (東京外国語大学・名誉教授)

2025

3/28 ^金

10:30~18:00

京都大学文学部校舎2階

第3講義室

参加無料

会場・オンライン 同時開催



事前参加登録をお願いします。

参加登録の締め切り日までに、下記のURLにアクセスし、
申込フォームを入力・送信してください。



締め切り日 3/25 (火)

◀こちらから登録できます

お問い合わせ：龍谷大学・手嶋 英貴
mail: a21016@mail.ryukoku.ac.jp

【主催】京都大学人文科学研究所共同研究班「インドにおける「循環的存在論」の形成——祭祀思想から哲学への発展を中心に」(班長：手嶋英貴)

【共催】国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))「ヴェーダ文献における言語層の考察とそれを利用した文献年代推定プログラムの開発」
(研究代表者：天野恭子 課題番号：21KK0004)

- 基礎研究 (C) 「ガナパティ派ブラーナ聖典における救済論の研究」(研究代表者：井田克征 課題番号：23K00056)
- 基礎研究 (C) 「ヴェーダ文献における祭主の規定から読み解く古代インドの社会倫理」(研究代表者：大島智晴 課題番号：23K00046)
- 基礎研究 (C) 「『アムナーヤマンジャリー』梵蔵バイリンガル写本に基づくインド密教注釈文献の研究」(研究代表者：菊谷竜太 課題番号：19K00055)
- 基礎研究 (C) 「インドラとは何者か?：古代インドの英雄神に関する総合的研究」(研究代表者：堂山英次郎 課題番号：20K00051)
- 基礎研究 (C) 「インド古典から日本古典へのもう一つの道：東南アジアを経由する文学の流れを探る」(研究代表者：中村史 課題番号：21K00450)
- 基礎研究 (C) 「ヴェーダ祭式の祭官選任儀礼に見る古代インド階層社会の形成」(研究代表者：西村直子 課題番号：21K00046)
- 若手研究 「後期二一元論学派における救済論体系の研究」(研究代表者：真鍋智裕 課題番号：21K12843)
- 若手研究 「近代以前のヒンドウー教の諸相—聖地と聖地巡礼の発展史から」(研究代表者：虫賀幹華 課題番号：23K12023)

(以上、代表者名50音順)

インド思想史における ヒンドゥー法典の 意義

2025 3/28 (金)
10:30~18:00

■ タイムテーブル

10:30	開会
10:30-11:00	導入解説：手嶋 英貴
11:00-12:00	発表1 手嶋 英貴
12:00-13:10	昼休憩
13:10-14:10	発表2 吉水 清孝
14:10-15:10	発表3 谷口 力光
15:10-15:20	小休憩
15:20-16:20	発表4 斉藤 茜
16:20-17:20	発表5 横地 優子
17:20-17:30	小休憩
17:30-18:00	ディスカッション
18:00	閉会



発表1

内なる証人の思想的系譜—— ウパニシャッドから『マヌ法典』、シャクンタラー物語へ

手嶋 英貴 (龍谷大学・教授)

インド古典にはしばしば「善悪の行為は全て、行為者自らの内にある真の自己たる証人 (sākṣin-) が目撃しており、死後の行方を差配する」という観念が現れる。ウパニシャッドから『マヌ法典』、そして『マハーバーラタ』シャクンタラー物語の一場面にまでおよぶその観念の発展史をたどる。

【指定コメンテーター】 眞鍋 智裕 (北海道大学大学院・准教授)

発表2

『マヌ法典』第1章における二つの創成説 (cosmogony) 再考

吉水 清孝 (公益財団法人東洋文庫・研究員)

『マヌ法典』第1章には神話的な世界創成と初期サーンキヤ的な世界創成が説かれる。発表では注釈での本文の読みに着目しつつ『マハーバーラタ』「解脱法篇」での創成説と比較し、二つの創成説の関係とそれを説く動機を再考する。

【指定コメンテーター】 高橋 健二 (東洋大学・准教授)

発表3

ユガの循環と逡滅するダルマ—— 叙事詩、法典の「子供」、そしてその先へ

谷口 力光 (名古屋大学・研究員 (学振PD))

ユガに同調するダルマの逡滅という観念は、『マヌ法典』などの権威を保ちながらもその法的効力を制限する必要に駆られたヒンドゥー法典家たちにとって重要だった。本発表では、叙事詩、法典そして初期近代までの主なダルマニバンダを紹介し、そのような事例として特徴的な「子供」についての法律論の変遷史を寸描する。

【指定コメンテーター】 沼田 一郎 (東洋大学・教授)

発表4

アガスティヤ仙とガネーシャの南下、神格の混淆と発展について

斉藤 茜 (オーストリア科学アカデミー・研究員)

アガスティヤ仙とガネーシャはその劇的な進化の過程と「南」の内在化において共通する。神話上で両者が共に現れることは殆どないものの、最終的には隣同士に配置される二柱の変わり続ける姿を、法典を含む中世の文献資料と現存する寺院の図像資料から追う。

【指定コメンテーター】 井田 克征 (中央大学・准教授)

発表5

シヴァダルマ文献における牛の聖性

横地 優子 (京都大学大学院・教授)

牛を聖なる動物として守護するという考え方は、すでにヴェーダ文献の後期には現れている。この発表ではシヴァ信仰において牛の聖性がどのようにみなされているかを、近年研究が進んでいるシヴァダルマ文献群の一つであるシヴァダルモッタラ (7~8世紀頃成立) の第12章を中心として検討する。

【指定コメンテーター】 高島 淳 (東京外国語大学・名誉教授)

